

SRT- I スイフトウォーター・レスキュー・テクニシャン レベル I /スケジュール表

※スケジュールは予定です。終了時間は遅くなる事があります。また、始業時間の変更もあります。
 ※昼食など食事は含まれません。ご持参されるか、付近の施設をご利用ください。
 ※状況により、下記の項目以外の講習を加えたり、替えたり、減らすことがあります。

1日目 受付/8:30
 流水実技講習/9:30~16:00~17:00(終日、川での実技講習。途中で昼食)

講習課題	概要
ベーシック・スイム	ディフェンシブ・スイムとアグレッシブ・スイム。ロール・オーバー。スイム・フェリー・アングル。ダイブの注意事項など
スローロープ & セカンド・スロー	成功率が高く、迅速な救助の道具、スローロープ(スローバック)の特性と使い方、流される要救助者を陸上(片岸)から救助。リコイルし、再度投げる。
コンタク・スイム	流されている、溺れている要救助者を、直接、泳いで救助。パニック状態の要救助者への対応。
ライブ・ベイト(生き餌)	クイックリリース・ハーネス(QRH)付きPFDとスローロープを組合せ、水泳救助者が要救助者を掴んだら、ロープを振り子状に戻す。ベクターで横引き。
Cスパイン・ロール	頸椎損傷が疑われる、うつ伏せで意識の無い要救助者の気道確保と救出
浅瀬横断	救助者(単独および複数)が、浅瀬を歩いて要救助者を救出する複数の方法
ストレーナー越え	流水でハザードにとらわれるリスクの体感確認と脱出
フット・エントラップメント	流水中で足がはさまり動けなくなった要救助者の救助方法(片岸法)
実技内容の確認・復習	実施した実技訓練を振り返り、説明。

2日目 教室(室内)と陸上実技講習/8:30~17:30(昼食は持参か、近くの施設)

NFPA各基準	NFPA1006(2021年)、NFPA2500(2022年版)の紹介
救助哲学	救助の基本的な考え方と救助者の心構え。救助の優先順位、危険レベル分類、チーム構成など
水文学と水力学	水文データ(流量、水位、水温、濁度など)の意味と利用。流速と水圧の関係。川の方角。流れる方向。層状流。らせん流。ホールの種類とリスク。フェリーアングル(渡し舟の角度)。流水にあるハザード(危険物、危険性)。難易度。流
リスク別救助方法	声かけ→浮力物を投げる→片岸から差し伸ばす・投げる・引く→浅瀬歩行→ボート→泳ぐ
救急法	基本的な応急手当の原則。川での事故や疾病の特徴。野外救急法の紹介
PPE 個人保護具	PFD(浮力補助具。ライフジャケットとの違い)。専用衣類。ヘルメット。専用シューズ(踏ん張れるソール)。ナイフ。その他。
救助器具	スローバック、QRHなどの、適用範囲と限界。
共同装備	ロープの種類と特性。連結器、滑車など器具の特性、素材、強度、適用範囲など。
基本結索	結ぶ、整える、締める。ひと結び(オーバーハンド)、8の字、もやい結び(ボウリン)、ヒッチ。
アンカー・システム	アンカーの選択と作成、角度の問題、荷重分配・荷重分担など。
倍力システム	滑車を利用してのロープの方向転換や倍力による展張線(テンションライン)や重量物を移動させる方法。3:1倍力(Zドラッグ)を作成。

3日目 流水実技講習と認定式/8:30~18:00(川での実技講習。現地で昼食予定)

ボート操船	水上救助で使用するインフレーター・ボートの操船訓練
ライン・クロッシング	60m未満の川幅に迅速にロープを渡す。
2(4)ポイント・ボートテザー・システム	ボートに複数のロープをつなぎ、ロープを両岸から操作することによりボートをコントロールする救助システムの構築と運用。
テンション・ダイオゴナル	川に正しい角度で展張線(テンションライン)をチームで張り、その有効性を確認する。オプション/QRH緊急脱出
ボックス・シンチ	幅20m以内で両岸から、2~4名で迅速に構築し、救助
フット・エントラップメント	流水中で足がはさまり動けなくなった要救助者の救助方法(両岸法) (着替え、教室へ移動)
実技内容の確認・復習	実施した実技訓練を振り返り、説明。
筆記試験と認定式	学科試験を実施。実技講習中のチェックと合わせ、合格者に認定証を交付